



“International Beer Cup 2021”審査講評

International Beer Cup 2021
審査委員長 小嶋 徹也・村林 智

9月24日、25日と横浜・TKPガーデンシティ横浜にて、日本地ビール協会（クラフトビア・アソシエーション）が主催する International Beer Cup 2021（IBC 2021）が開催された。新型コロナウイルスの発生により、その感染拡大防止が要請される中、今回も会場の換気、審査会場の空間確保、全関係者の手洗い・消毒やマスク・手袋の着用など感染症対策に万全を尽くしての開催となった。

IBC2021では、日本を含む8つの国・地域から943銘柄のビールが出品され、日本在住の55人の経験豊かな審査員によって審査が行われた。国内外の置かれている状況を踏まえ、本年も海外からの審査員を招聘できず、審査を国際的な客観性のもとに行なうことができなかった点は大変残念であった。なお審査員55名のうち、半数を超える28名が日常的に醸造に関わる方であったことは特筆できる。当会のビアジャッジ資格を取られる醸造士は増加傾向であり、客観的なテイasting能力を研鑽し、醸造に活用されていることは品質の向上にも貢献しているといえる。

海外からのビールの出品は300銘柄を超え、また新規国内ブルワリーからの出品も過去最大級であった。このことから、本審査会の役割は一層重要であると考えられ、国際的な品格と厳正さも併せ持つことが必要である。

審査結果はすでに公開済みであるが、ここで全体の傾向を述べる。まず今回は下記の国と地域で受賞が発表されている。（カッコ内は金、銀、銅各賞の内訳）

日本 198 (39, 67, 92)

米国 34 (9, 9, 16)

コロンビア 2 (0, 1, 1)

中華人民共和国 27 (6, 12, 9)

香港 5 (0, 2, 3)

台湾 21 (7, 6, 8)

韓国 27 (7, 15, 5)

国や地域、ビアスタイルごとの出品数内訳は未公開ながら、受賞傾向より

- 1) アメリカを起源とする、あるいはアメリカにおいて大きく進化したビアスタイルにおける、アメリカのクラフトビールの強さ
- 2) 2019年の受賞数18(4, 9, 5)から大幅増加したことから垣間見られる韓国のクラフトビールの進化
- 3) 日本独自のビアスタイル「Yuzu Beer(ボトル・缶部門)」において台湾のSUNMAI (LONG SUN BREWING CO.,LTD.) が、米国発祥の「American-Style Pale Ale(ボトル・缶部門)」で日本の伊勢角屋麦酒（有限会社二軒茶屋餅角屋本店）がそれぞれ金賞をとるなど、ビアスタイルの発祥地を問わない進化などが見て取れる。

IBC では全ビアスタイルを 12 のカテゴリーに分け、ボトル・缶部門とケグ部門でそれぞれ金メダルを受賞したビールの中からカテゴリーチャンピオンを選出している。受賞 21 カテゴリーのうち 19 カテゴリーは日本を含むアジアからの出品であり、まさに世界を代表するビールが極東地域に存在することを示している。

ビアスタイルとしては、「American-Style India Pale Ale」、「Juicy or Hazy India Pale Ale」の出品数が筆頭で、これまで最大のビール出品があった 2019 年よりも総数が多かったことは、市場動向を反映していると考えられ、着目に値する。

続いて、「South German-Style Hefeweizen」、「Fruit Beer」、「Herb and Spice Beer」の出品が目立つ。「Herb and Spice Beer」の出品が多いのは明らかに地域性といっても差支えはないだろう。また、「Japan Origin」のカテゴリーに含まれる「Sake Yeast Beer」と「Yuzu Beer」には国内でではなく海外からも多く出品があった。世界的にも注目が高くなっているビアスタイルといえる証左である。

15 年ほど前に比べれば、現在ではクラフトビールに触れる機会は明らかに多くなったと感じられる。それゆえ、伝統と革新に深く敬意をささげることはもちろんのこと、審査結果を通じてフィードバックを行うことがクラフトビールの多様性をより進化させる機会として重要であると考え。加えて、このような審査会をきっかけとした人と人との技術交流の重要性はより一層増していることには疑いがない。

昨年からの、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、いままで当たり前だと思っていたことが実はそうではなかったと思知らされ、なかなか思い通りいかない状況はまだ継続している。一刻も早い現在の状況の落ち着きを期待し、国内外の連携を深めながら、関係者の皆様への感謝を忘れず、心機一転してクラフトビールの理解、普及、品質の向上へ資する活動を一層加速させていきたいと考えている。

最後に、世界的に大変厳しい状況の中、ビールをご出品いただいたブルワリーならびに販売会社の各位には、心からお礼を申し上げたい。また、感染拡大防止のための対策による不便がある中、ビールの審査に参加していただいた審査員の皆さん、準備・進行・管理にあたってくださったスチュワードの方々には厚く感謝の意を表したい。審査結果やコメントが出品者へのさらなる励みとして、消費者には魅力的な選択肢の提示として今回の審査会を通じて少しでも貢献できていれば幸いである。